

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600055		
法人名	社会福祉法人 博寿会		
事業所名	グループホーム とびしま		
所在地	愛知県海部郡飛島村大字服岡四丁目4-1		
自己評価作成日	令和 元年12月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2395600055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Iype=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2395600055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Iype=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 元年12月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が「笑顔と思いやりの心」で利用者様に接することを心がけています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年目を迎えるホームであり、管理者は地域に向けて積極的に取り組む姿勢を持ち、地域に根づくよう取り組んでいる。ホームの多目的室で実施している「ゆったりカフェ」は、当初、地域包括支援センターに場所を提供し、その後ホームに委託されて2年が経過した。老人会に出向き「ゆったりカフェ」の説明を行う等、地域交流の一環として継続している。カフェには地域から継続して参加している地域住民もおり、地域と顔馴染みの関係ができています。  
地域のボランティアがホームに来て、利用者と一緒に「手作りおやつ」を作る日が毎月1回ある。おやつ作りは利用者の楽しみの一つとなっている。村の作品展への出展や敬老会への参加等で、徐々に地域の認知を得てきている。管理者は、ホームが地域の認知症の拠点となることを目指している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と思いやりの心」を共通理念として日々の業務に取り組んでいます。	ホーム独自の理念を事務所に掲示し、職員は利用者が笑顔で過ごせるよう、利用者寄り添った支援を心がけている。新人職員研修には理念を柱とした研修を実施しているが、振り返る機会はない。	会議等で、理念に根差した支援を振り返る機会を設け、職員間で共有して浸透を図り、具体的実践に結び付けていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村の行事には極力参加している。敬老会や作品展にも参加している。	地域行事の作品展、敬老会に参加している。ボランティアの積極的な受け入れや、「ゆったりカフェ」を開催しており、継続的に地域住民の参加がある。地域との双方向の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している「ゆったりカフェ」(介護者の集い)に地元の人たちを招き、毎回テーマを決めて認知症や介護に係る講話等を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での評価や意見は、事業所の運営に反映させている。	年6回地域包括支援センター・村の保健福祉課・区長・民生委員・家族の参加を得て開催している。会議では、運営状況の報告に続き、参加者から積極的な意見や助言を得て、サービス向上に繋いでいる。	多くの家族の参加を得るため、継続的に家族に呼び掛けてほしい。家族の参加しやすい日程や、行事に合わせた開催など、工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の入退所時、村の行事についての通知など随時、相互に連絡を取り連携を保っている。	地域包括支援センターからの依頼で、「ゆったりカフェ」の開催を継続している。運営推進会議には村の保健福祉課職員、地域包括支援センターの職員が毎回出席しており、互いに信頼関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で身体拘束適正化委員会を開き現状の把握、見直しに努めている。	センサーマットの使用など、毎月の会議で必要性・適正を検討し、状態を正しく把握することで身体拘束をしないケアを実践している。玄関に施錠はあるが外に出たい利用者には、一緒に話をしながら職員が付いて外に出掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師を招いた研修に参加したり、職員同士で注意をするなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護についての勉強会は実施しておらず、今後実施する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行ない、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に直接意見を頂くか、運営推進会議に参加して頂き、要望等を吸い上げている。	殆どの家族が月1回来訪している。面会時には職員誰もが日頃の様子を伝え、家族から「とても満足している」と好評を得ている。家族から聞き取った意見・要望は、申し送りノートに記載して共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日々の業務の中で聞き取り、反映させている。	月1回の職員会議があり、意見を述べる機会はあるが、職員は「管理者には何でも話し易い」と、良好な関係がうかがえる。職員意見の「便秘を薬で対応せず、乳製品で・・・」から、牛乳を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に数回ではあるが、直接現場に来て職員と会話し、職員の状態を見ていられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的で開催し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修場所を他法人で行ったりして、職員同士の交流を図る機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の利用時は誰もが不安であることを理解し、ケアプランにも取り上げ、皆で対応を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、心配事などできる限り吸い上げて対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として本人様に必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の能力を探り観察し、生き活きと生活して頂けるよう支援するとともに生活の知恵を教えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族の関係が途切れないように、盆や正月には帰宅して頂けるように声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事にはできる限り参加し、地域の人と交流を図り、馴染みの喫茶店に出かけることとしている。	宗教の仲間が訪ねて来ている。家族の協力で法事や、娘の床屋に出掛け髪を切ったり、透析の娘に会いに出掛けたりしている。傾聴ボランティアなど、新しい馴染みの関係もある。飲酒など嗜好の継続の配慮もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席を変更したり、職員が間に入るなどして良好な関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設に移られた後でも本人様やご家族に会い、挨拶や会話をさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、また利用者ごとの様子の観察から、ご本人の意向や思いなどを把握し、ケアプランの立案にも活用している。	思いを把握するため、日々の関わりの中で一人ひとりのタイミングや、距離感を大切にコミュニケーションを図っている。余り話さない利用者の表情や、好きな事探しを行い、利用者寄り添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の事前面談で直接ご本人より聞いたり、ご家族からも詳しく聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや介助、状況の観察を欠かさずケース記録に記入し、職員全体で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で各利用者についての状態を検討し、その後ご家族に説明している。	面会時には家族から要望を聞き、反映した介護計画を作成している。6ヶ月毎に居室担当者がモニタリングを行い、更新時や状況の変化時には、サービス担当者会議を開催して、介護計画を見直している。	思いや意向に着目し、利用者・家族・職員が互いに達成感が得られる、具体的な介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や気づきノートに日々の様子は記録し職員はそれらに目を通し、情報共有とケアの改善などに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り随時生じた要望に対応しており、画一的なサービスにならない様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに月一回来てもらい、皆でおやつ作りをしたり傾聴の時間も設けたりして支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新たに受診が必要な場合は今までのかかりつけ医がないか家族に確認し、あればそちらを優先してかかるようにしている。また送迎の支援もしている。	全員が協力医をかかりつけ医とし、毎週往診を受け、緊急時の往診も可能である。隣の施設の看護師が週1回健康チェックを行い、家族の安心に繋げている。専門医は家族対応であり、情報提供・収集を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問があり、全利用者の状態を診てもらっている。その時に気づいたことなどを報告し処置や受診が必要ならばその様に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は本人の情報をお伝えし、こまめに連絡を取り、良好な関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合に救急搬送と延命処置についてご家族の希望を聞き、職員間で把握するようにしている。	医療的ケアがない場合、利用者・家族の意向に沿って医療機関と連携を図り、看取りの事例がある。職員の不安は看護師に相談し、管理者から「直ぐに飛んでくる」との言葉があり、不安解消に繋げている。利用者・家族が後悔の無いように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを使ったり、心臓マッサージの仕方を学ぶ機会を内部研修で受講する機会がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で身につけている。	年2回(夜間想定を含む)のうち、1回は消防署立ち合いの下、通報・初期消火・避難訓練を行っている。水害訓練では、協力関係のある隣の施設の3階のスロープを使用して、3階までの避難訓練を実施している。	夜間災害では地域の協力が不可欠である。運営推進会議などで、災害について地域との協力関係について検討し、地域の役割など、具体的な協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人ひとりを尊重しながら声掛けや対応をしている。	利用者の呼称は基本「さん」つけを行い、尊厳を大切にしている。トイレや居室の戸閉め励行や、利用者のトイレ誘導には小声での誘導を心がけている。入浴時のタオル掛けなどで、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類やおやつなど選択できるものがある時は必ずご本人に聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人ひとりのペースで過ごしてもらい、無理強いはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好み、おしゃれに合わせて支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	衛生面を考え食事の調理はご利用者と一緒にはしていないが、テーブル拭きをして頂いたり、昼食は職員も一緒に食べご利用者と会話をしながら楽しい雰囲気をつくるようにしている。	隣接施設の厨房で調理した食事をホームで盛り付け、食事形態を変えて提供している。2ヶ月毎にボランティアと一緒に作る「おやつ作り」や、畑の野菜の使用、法人のイベント食を食べに行くなど、「食」を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスのとれた食事が3食提供され、食事の摂取量は毎食時記録し不足している場合は別のもので補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各々一人ひとりに合わせたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレにて自力で行って頂けるように支援している。	排泄チェック表で、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。利用者の行動を見ながら誘導し、失禁を減らすよう努めている。便秘改善は薬に頼らず、自然排便を誘発するため、週2回牛乳を飲むようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週に2回牛乳を飲む日を設けたり、水分摂取量を多くしたりして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めてしまっているが、ご利用者から希望があれば応えるようにしている。	2種類の機械浴があり、週3回の入浴機会がある。一人ひとり入浴の湯を代え、こだわりのシャンプー使用にも配慮している。拒否する利用者には無理強いせず、声掛けの工夫をして入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて居室にて休んで頂いたり、声掛けなどして配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・効能を表示しご利用者の内服している薬の内容の把握に努め、ご利用者の体調の変化にも配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人の役にたっているという気持ちをもてるように洗濯物たたみや掃除、庭の草取りをしてもらったり散歩に出かける等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は散歩や近所の喫茶店に出かけたり、春には花見、隔月1回くらいは外食(他施設)に出かけたりしている。	天気や体調に配慮し、ホーム近隣に散歩に出掛けている。車で季節の花見のドライブやコンビニでの買い物、喫茶店に出掛けるなど、外出を楽しんでいる。農業経験の利用者も多く、ホームの前の畑作りや収穫、草むしり等で季節感を味わう機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全てのご利用者ではないが、少額の現金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があれば、ご家族に電話をしてもらうなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるができるように壁の飾り付けを定期的に交換したり、快適な室温・湿度を保てるように空調を活用し、また冬には加湿器を使ったりしている。	静かな環境であり、南向きで全面ガラスのリビングは日当たりが良い。庭や畑が見渡せ、季節感を感じるができる。職員と一緒に作成した季節の飾り物や習字作品、満面の笑顔の写真が飾られ、温かく穏やかな環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳ベット、ソファ、マッサージチェアを置き、より家庭的な雰囲気やゆったり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち、ご自宅で使い慣れた馴染みのものを持ちこんでもらい過ごしてもらっている。	洗面、大きなクローゼットが設備され、村から提供された加湿器が居室に置かれ、整理整頓された清潔な環境になっている。家族写真、位牌や遺影、アルバムや趣味の作品など、思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはわかりやすいように名前が表示されているところもある。		